6. 暮らしへの関わり

子育て・教育

- 本市の年少人口は2014年から2024年にかけておよそ1,700人減少しました。
- 2025年以降もペースは緩やかになるものの、引き続き減少傾向が続いていくと見込んでいます。
- 将来的には企業集積の進展や社会環境の変動による人口の変化も考えられることから、状況に応じた子育て・教育支援の充実に向けた取組を行うなど、柔軟な対応が求められます。

高齢者福祉・医療

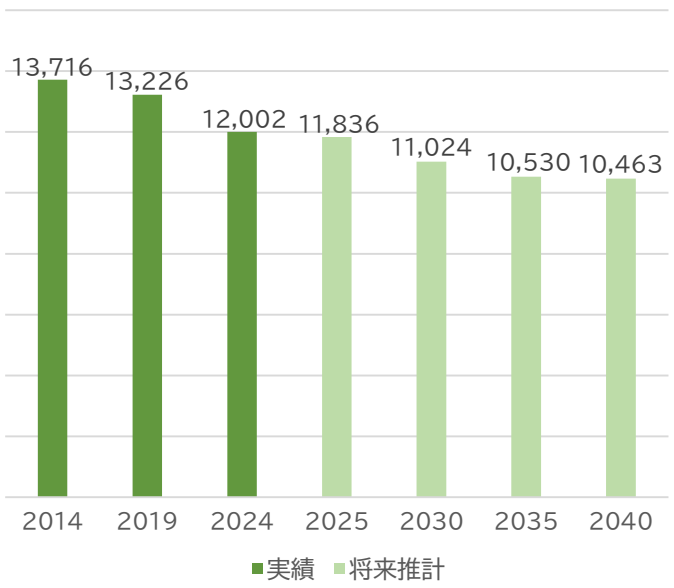
- 老年人口は2014年から2019年にかけては第1次ベビーブーム世代（団塊の世代）が老年人口層に突入したため3,200人を超える大幅な増加となりました。2019年から2024年にかけてはおよそ1,300人増加しています。
- 2025年から2030年の5年間では、高齢化の進行に大きな変化はないと想定していますが、2030年～2040年の10年間では4,200人の増加が予測され、高齢化のペースは加速すると考えられます。
- 高齢化の進行をはじめとする人口構造の変化等を踏まえながら、今後の医療ニーズの変化に即した医療提供体制を確保していくことが求められます。

外国人対応

- 半導体産業集積により本市へ転入する外国人は少数と想定していますが、装置の据え付け及び立ち上げ時等には海外企業の従業員も出張で派遣されます。
- Rapidusの事業進捗に合わせて2028年1～3月には170人程度の外国人が本市を訪れると予測しています。
- 将来的には世界各国から研究等で本市を訪れる外国人が増加し、定住につながっていくことも考えられるため、外国人のニーズに応える宿泊施設や商業施設、医療、教育の充実、市内の案内板整備などのほか、すでに増加している外国人定住者数を踏まえると様々な文化に対する相互理解の促進に取り組んでいく必要があります。

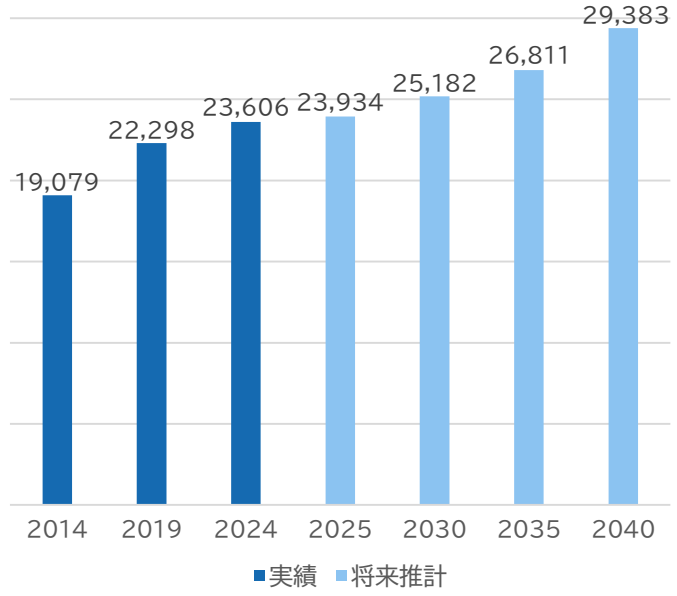
単位：人

年少人口（0～14歳）



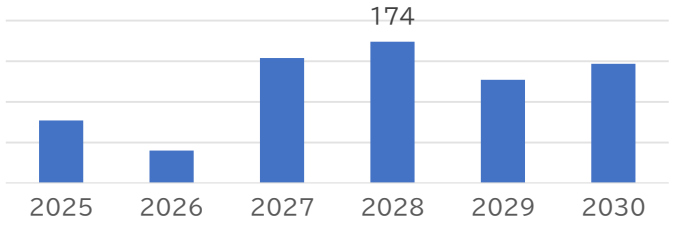
単位：人

老年人口（65歳以上）



単位：人

外国人出張者の推計
（年間最大数、四半期あたり）



単位：人

本市の外国人定住者数の推移

